

## UNOPS支援プロジェクト完了式典の開催

8月24日、嶋崎大使は、令和2年度補正予算により日本が支援するプロジェクトである「王立医療サービスへの新型コロナウイルス対応緊急運営能力強化」の完了式に出席しました。

本プロジェクトは、日本の約190万ドルの支援（非ODA）により、UNOPS（国連プロジェクト・サービス機関）との協力の下、ヨルダン王立医療サービス（RMS）の施設改修及び機材調達を通じ、新型コロナウイルス流行の危機対応及びヨルダン国民とシリア難民の双方に対する、喫緊の保健医療サービス提供に寄与するRMSの運営向上を図ることを目的としたものです。

完了式典は、今回改修を行った3施設の1つであるアンマン市内のキング・フセイン医療センターで開催され、RMSからズレイカート局長、UNOPSからアクラム・マルチカントリーオフィス代表が出席し、それぞれ挨拶を行い、この中で、ヨルダン側から、日本及びヨルダンの良好なパートナーシップに基づく支援に対し謝意が表明されました。

嶋崎大使は、ヨルダンの医療システムにおいて益々重要な役割を担っているRMSの、新型コロナウイルスによる様々な影響を軽減し、脆弱なヨルダン人だけでなく、シリア難民にも不可欠な医療及び人道サービスを提供する努力を賞賛する旨述べ、式典に続いて医療施設の視察を行いました。

